

笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共済のプログラム、企業訪問をした1日で、今までで一番多くの大人の方々と出会いました。たくさんの方々の話を伺ったり、ディスカッションをして、今まで自分が見てきた世界の小ささや曖昧さを明確に感じたとともに、実際に社会に出たときのビジョンが少しずつ見えるようになったとおもいます。

午前中の活動の、笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォースの方々とグループセッションではグローバルな考えを持つことができました。今まで私は「日本語が通じないことが怖い」「日本から出なくても支障がないだろう」「私は海外と縁なんてないし…」と思い、海外へ行くことについて真剣に考えたことがありませんでした。しかし、海外でいろいろな経験を積んできた方々の話を伺ってみると、本当に意識すべきなのは海外のことなのだということがよくわかりました。このように言葉で書くと衝撃が半減してしまう気がしますが、本当に遠い存在だと感じていた海外における物事の考え方がよくわかりました。例えば、安達さんの話にあった、「リオデジャネイロオリンピックについて、治安が悪いことに日本のメディアはネガティブに報道していたが、実際の現場は違う。海外の人々は開幕する1時間前までに問題が解決すれば大丈夫だろうというポジティブな考えを持っている」という内容です。私は日本を出て生活したことがないために、現地での考えを想像したことすらありませんでした。また、私がお話しした4人の方々は揃って「海外へ行く経験そのものが重要な意味を持つ」とおっしゃっていました。あらゆるものが違い、それを克服することで相手を理解し、人間として大きくなれるそうです。実際、市場での競争相手となるのは外国なので、日本の将来の担い手である私たちは環境、教育レベルの違いを感じるべきだと思います。そして、その過程で今回のように大人の方々から体験談を聞いていけたらよいと思いました。

午前の部で心に残ったことがもう一つあります。それは、「人生において無駄なことは何一つない」ということです。例えば、英語の授業です。高校に入学し、英語が少しずつ難しくなっていく中で、私は「こんなに細かい文法を習っているが、実際、海外では単語さえわかれば伝わるのではないか」と思うことがしばしばありました。しかし、今回お話しした但木さんは「伝わる英語と正しい日本語は別物である」とおっしゃっていました。私はこの言葉により考えを改めることができました。日本人として公で英語を話すときに求められるのは「正しい」を話すことなのだと気づきました。英語の学習を無駄だとは思わずに、「正しい」言葉を学ぶことを考えて行おうと思いました。もう一つ例があります。田部さんの留学経験の中の、アメリカの大学での専門分野ではない分野の授業です。田部さんはこのことについて、「当時は英語を理解しながら授業を受けるのは大変だった。しかし、その経験は知識的に、というよりも、ディスカッションの経験など間接的に役立った」とおっしゃっていました。直接的な結果だけを求めずに、頑張った経験を大切にしていこうと思います。「この科目は受験に必要ないから…」と考えてしまう私ですが、受験に必要か否かではなく、人生の中でいつかこの経験が役立てばいいな、と思いながら生活していこうと思います。これらのような聴き終えた今では、一回しかない人生の一つ一つすべての経験が価値を持っているように思えます。本当に、貴重なお話を聞かせていただいた時間でした。ありがとうございました。

午後の部では、私たちはアステラス製薬へ企業訪問へ行きました。インターネットで調べた他には調べたことがなかった製薬の仕事についてよくわかり、明確な将来への希望が見えるようになったよい経験となりました。

ここで、アステラス製薬の紹介をしたいと思います。アステラス製薬では医療用医薬品を創っています。医療用医薬品は市販の薬とは違い、医療現場で医師などを通じて使われる薬です。実は、出回っている薬の89.8%がこれです。日本国内で新薬の医療用医薬品を創っているの企業はアステラス製薬のみで、アステラス製薬は国際的にもたくさんの人々の命を救っています。一概に「アステラス製薬」といっても、研究施設や支店など全国にたくさんの部署があります。因みに、私が携わりたいのは新薬の研究です。また、アステラス製薬はドーピングの問題について、「薬が本来の目的ではないことに使われるのは嫌だ」とおっしゃっていました。

私は製薬についてとても興味を持っていたので、話を聞いているときに本当にわくわくしました。ここからは、私の印象に特に深く残ったことを書こうと思います。

まず、新薬を販売する難しさについてです。新薬には特許期間というものが設けられていて、この期間内に研究開発、承認申請、発売をしなければなりません。つまり、その期間内（特許庁に申請してから20～25年）にいかにかたくさん販売し、売り上げを伸ばせるかが勝負となります。開発には9～17年かかり、研究開発費には1000億円以上もかかります。私は、この想像をはるかに超える難しさを聞いて、本当に驚きました。それとともに、この厳しい勝負の中に、小さな力としてでも携わりたいと強く思いました。国際的な視点で見ると、日本は新薬の創出のうち12%を占めていて、北アメリカは36%を占めているそうです。新薬は次の研究開発への高額の投資を販売の段階でしなければなりません。だから、経済的に発達している国が高い新薬創出力を持ちます。私は日本に生まれたので、そのことを生かして世界に数多く残るアンメットニーズ(特効薬が見つからない病気)に答えられるよう、新薬の研究開発をしたいと思います。

また、薬についても印象に残ったことが幾つかあります。一つ目は、漢方薬と他の薬についてです。漢方薬は生物由来で東洋医学、他の薬は化学由来で西洋医学が元になっています。近年は、少しずつ漢方薬が注目されているそうです。私は生物について興味を持っているので、漢方薬を元にして医療用医薬品が創れたらおもしろいな、と思いました。漢方薬ではないのですが、実際、土の中の微生物の力が創薬のヒントになった例もあるそうです。二つ目は薬が患部ではないところに行ってしまったときにどうなるか、ということです。経験からわかるように、この疑問の答えは「何も起こらない」です。薬は鍵で、患部は鍵穴のようであるらしいです。鍵が合わない鍵穴に入っても何も起こらないことが薬でも同様にいえます。ですが、薬がより早く患部に行くことは薬の効き目をよくするには大切なことで、新薬を創る上でも欠かせないことであるらしいです。ちょうど今、その研究がされているそうです。一つ一つの研究が私たちが健康でいられるようにするための薬に繋がっていると思います。それはまさに午前の部のときに思った、「無駄なこと何一つない」ということなのではないかと思います。

そして、MR（医薬品およびその関連情報を医療現場に伝える仕事）のやりがいについても伺いました。それは、ドクターに「君はもう医療チームの一員だ」と言われたことだそうです。一人一人が重要な人材で、皆で力を合わせて人の命を救う医療チームはとてがかっこいいものだと思います。

最後に、私はこの日に本当に多くのことを学びました。私が今まで見ることが出来なかった大人の社会を見ることができて、よかったです。私が真剣に「将来やりたいこと」と思っている知ることができ、国際的な視点で将来を見ることができました。この機会に携わってくださった方々、本当にありがとうございました。この経験を糧にして将来について深く考え、自分に合った選択をしたいと思います。